

耳よりな話

N.51

平成 26 年 11 月 26 日発行

(労働・社会保険ニュース)

阿部年金労務管理研究所

阿部 純二 (社会保険労務士)

〒194-0045 東京都町田市南成瀬 5-25-14

Tel 090-1200-1526 Fax 042-722-1526

E-mail: abenenkin@ybb.ne.jp

<http://nenkinsodan.web.fc2.com/>

◎まだある・・・年金もらい忘れ

年金相談の事例をご紹介します。 62歳の女性。結婚前に大手スーパーに数年間勤務。いろいろお話を伺っていると年金受給額がどうも少ないことに気づきました。詳しく調べてみると、厚生年金基金の年金は受給しているが、本来の老齢厚生年金を受給していないことが判明しました。厚生年金基金の年金は「企業年金連合会」から支給され、老齢厚生年金の年金は「日本年金機構」から支給されます。つまり2か所におのおの請求手続きをしなければなりません。どうも1か所だけの請求で手続きは終了していると勘違いし、老齢厚生年金の請求手続きをしていなかったようです。

一般的にはこの逆のケース、つまり老齢厚生年金の請求手続きだけをして、厚生年金基金の請求を忘れていた事例が多いのですが、いずれにしても請求手続きをしなければ大きな損失です。

このケースの場合、請求時効内ですから60歳まで遡って2年分の一時金と併せ、今後は2か所から年金が支給されることとなります。大変感謝されたことは言うまでもありません。

転職で勤務先が変わった経験のある男性や、結婚前に勤務経験がある女性で、当時厚生年金基金に加入していた事に気付かないまま請求していないケースが多くあります。心当たりの方、是非調べてみてください。

遺族年金を受給している人も、生前のご主人の年金履歴を再調査することにより遡及一時金に結びついて、予期せぬボーナスに恵まれる可能性があります。ご供養になるのではないのでしょうか。

【おことわり】

「耳よりな話」にてお知らせする年金等の内容につきましては、平易な文言にてその骨子を説明することを心掛けております。従いまして、法令条文通りの厳密な解釈や例外規定の適

用に拠っては該当しない人もいます。その旨をご理解頂きますよう、更に詳細が必要な方は別途お問い合わせください。

* 既発行の「耳よりな話」は <http://nenkinsodan.web.fc2.com/> をご覧ください。



江戸時代の政治体制は、現在のような中央集権体制ではなく地方自治体制でした。つまり日本全国を約 260 余の大名が各藩ごとに自治を任されていたわけです。

現代言われている地方自治が既に実行されていたこととなります。

江戸時代初期の日本全国の石高は約 3,000 万石。その内 700 万石が徳川幕府の領地で、さらにその内の 400 万石が徳川家、残りの 300 万石は旗本、御家人の領地でした。

その他飛騨の山林、佐渡金山等は幕府の直轄でした。

徳川家の領地は直轄領、いわゆる天領として全国に散在していました。その天領は肥沃な、かつ重要地点が多かったようです。ただ不思議なことに、幕末に反幕府勢力として活躍した薩長土肥藩にはほとんど存在していません。この事も討幕の一因となったのではないのでしょうか。その天領の中で、10 万石以上は郡代が、それ以下は代官が管理していました。

各藩は幕府が定める武家諸法度などの諸法令の範囲内で運営を許されていました。自治が許されていたとは言え、幕府の大目付や幕府の隠密が常に監視していました。

また大体 2 年に 1 回の参勤交代の他、江戸城の修復、道路整備、災害復旧などの役務負担が各大名に割り当てられました。

各大名は徳川家の覚えめでたくを競って、苦しい藩財政のなかで率先して役務提供をせざるを得なかったようです。

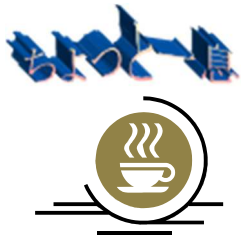
260 余の大名も 100 万石の前田家から 1 万石の大名までありましたから、小大名の負担は相当なものでした。また大大名にしてもそれなりの格式を維持せざるを得ないため、その負担もまた大きなものでした。

参勤交代は 3 代将軍家光の時代に始まりましたが、その理由は各大名に散在させて疲弊させる目的と言う説もありますが、主な目的は徳川家への臣従を確認させる事でした。

260 余の大名の内訳は、関ヶ原合戦前を境いとして、それ以前から徳川氏に仕えていた譜代大名と関ヶ原合戦後に仕えた外様大名がいました。特に外様大名の心中は、いつ改易取潰しされるかも知れないと言う不安がありました。そのため、民百姓への民生安定よりも江戸の方に気を使わざるを得ませんでした。

3 代将軍家光の時代に大船の建造は禁止されており、また参勤交代も海路は禁止され陸路のみでしたから、長い道中の負担は相当なものでした。

しかしこの参勤交代のお蔭で各宿場や道中が繁盛し、経済波及効果は大変大きなものとなりました。



第一生命が毎年「サラリーマン川柳コンクール」を発表しています。

傑作をご披露します。

(本件は第一生命様から転載の承認を得ております)

飲み屋では常に情報漏えい中

酔い太郎

退職後 昼寝のし過ぎの 不眠症

ムツシユ

「いつ買った」？ 前からあったと シラを切る

耐える夫

目のやり場 困ると言って まだ見てる

しゆう

参観日 静かにしなさい その親

心の叫び

第二十回 第一生命サラリーマン川柳コンクールより